
たまには間違える事もありますよ

ジョーカー

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

たまには間違える事もありますよ

【Zコード】

N4163BA

【作者名】 ジヨーカー

【あらすじ】

誰でもやつてしまいそうな出来事。ベタなマンガの出来事を連合メンバーと日本でやってみました。

注意 日本が不憫になっています。

(前書き)

先に書いたお詫び。ほんと、本当に申し訳ありませんでした…。

by 田本

「うわ、何これー？」

「どうなさいましたか、フランスさん？」

フランスさんがイギリスさんの淹れた紅茶を拭き出しながら言いました。

「何なのこの紅茶！？イギリスの料理よりマズイ！
イギリスさんの紅茶がですか？」

おかしいですね。イギリスさんの淹れた紅茶が美味しくないなんて事が今までにあつたでしょうか？

アメリカさんが珍しく紅茶を飲んでいる所を見ました。その後、フランスさんと同じように紅茶を拭き出しました。

「うわー、なんなんだいこれ！？イギリス！何だいこのマズイ紅茶は」

「はあ？俺が淹れる紅茶がマズイわけないだろー！」

イギリスさんが台所から顔だけ出してアメリカさんにこう言いました。

「でも、これ本当にマズインだぞ！イギリスも飲んで飲んでみればわかるんだぞ！」

「そんなんにマズイマズイ言つなーなんか、傷つくだろ……」

なんでここでシンゲレるんでしょうか？欧米の人達は理解しかねます。

イギリスさんは仕方なさそうに台所から私達のいる方へやってきて、紅茶をお飲みになられました。その後の反応は他の方々と同じように紅茶を拭き出しました。

「な、なんだこれ！？俺が淹れた紅茶か！？」

「そりあるーこれは間違いなくアヘンが淹れたやつあるー！」

なんで中国さんが…。

「あ、日本。我は久しぶりに日本の淹れた緑茶が飲みたいある。淹れるよろじ」

「わかりました。少し待つていてください」

私が席を立ち、台所に行くと先客が居ました。

「やあ、日本君」

…「これから私の家は連合メンバーの溜まり場になつたのでしきつ。

「こんなにちは、ロシアさん、なぜこのような所に？」

「イギリス君が紅茶を淹れてる所を見てたんだ～」

なぜー？

「あ、今なぜって思つたでしょ。理由を教えてあげると、イギリス君つて手元を見てなくても紅茶をいれられるんだよ。す”じよね～」

「はあ、それはす”いといふか、何といふか…」

「で、向こうで何があつたの？」

私はロシアさんに先ほど向こうで起きた出来事を説明しました。

「へー、そんな事があつたんだ。僕も飲んでみよつと」

…なぜ？

私はロシアさんが台所から出ていくと、緑茶を淹れる準備をしました。

「あ、こんな所に塩が…」

…塩？…まさか…いえ、そんなはずはありませんよね。イギリスさんが塩と砂糖を間違えるなんて…。

私はそう思い、塩の入った容器を持ち上げてみて気がつきました。

「これ、イギリスさんに貰つたシュガーポットですね。…私としたことが、塩を入れる容器を間違えたみたいですね」

私は急いで皆さんのお所に戻りました。そこで私の皿に入つたものは…

「だいたい君はそそつかしいんだよ。なんか変な所で不器用だしさ」「料理の下手さが紅茶にも移つたか？」

「違う！俺は確かにカップは温めて、茶葉の広がる時間も計つてた。なんでこんなに美味しいんだ？」

「うわー、何これ。すっごくマズイねー、イギリス君」

「アヘンなんか嫌いあるー近寄るなアヘン！」

皆さんのが口々にイギリスさんを罵つてゐるところでした。

「皆さん！あの、私が悪いんです！すみません！」

「は？なんで日本が謝るんだよ？俺の淹れ方が間違つてた」

「違うんです。イギリスさんは悪くないんです。私が塩をこれに入

れたらから…」

私はそう言つて、手に持つていていたシュガーポットを見せました。

「それは…シュガーポット?」

「はい。これに塩を入れてしまつていたんです。本当に申し訳ありません…」

私が頭を深く下げるとき、アメリカさんが言つてきました。

「…日本、顔上げてくれよ」

「そうある。イギリスみたいにわざと間違えてるんじゃないあるよ。ちょっと、年のせいある」

「中国君、それフォローになつてないよ」

「てか、そう言つてる中国が一番年寄りだしね」

「おい、フランス。そういう事は言わない方がいいだろ。後でどうなつても知らねーからな」

アメリカさんがいつものように笑い、中国さんがそれにのつかり、ロシアさんがソシコミを入れ、フランスさんが失礼な事を言い、イギリスさんがそんなフランスさんをど突きます。

皆さん、なんて優しい方なのでしょうか…。

「歯わん…。なんと言つたらいいか…」

「じゃあさ、間違えた代わりにこの紅茶、飲んでくれたらいいよ

「えつ…」

「ちなみに反対意見は認めないと…」

『もちろん、賛成』

「…歯わん…」

前言撤回します。血わんせ酔いの方ですね…。

私はその後、死ぬ気でげてもの紅茶を頂きました。あんな物、金輪際飲みたくありません。

(後書き)

ベタすぎるマンガの出来事をそのままヘタリアに当て嵌めてみました。

なんだか日本が不憫キャラになったのは、
本当にすみませんっ！

書いていたらこうなつてしましました…。
日本ファンの方、すみませんでした。

最後まで読んでいただきありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4163ba/>

たまには間違える事もありますよ

2012年1月10日23時48分発行